福井大学医学部附属病院高度被ばく医療支援センター開所式 挨拶

日時：2025年9月9日（火）15時30分～

場所：福井大学医学部附属病院

- ご紹介いただきました原子力規制委員会委員の伴です。原子力規制委員会を代表し、一言、ご挨拶申し上げます。
- 内木（ないき）学長、小淵（こぶち）センター長はじめ福井大学の関係者の皆様、そして、本日この場にご参加いただいている皆様には、平素より原子力防災のための技術支援・体制構築に御尽力いただき、誠にありがとうございます。この場を借りて改めて御礼を申し上げます。
- 福井県を含む北陸地域は、国内でもとくに原子力プラントが多く、原子力災害医療に関しても体制の充実強化が切望されてきました。そのような中で、令和5年4月1日に福井大学が高度被ばく医療支援センターに指定されたことは、北陸地域はもとより、我が国全体として原子力災害医療の基盤を強化するものであり、原子力規制委員会としても大変ありがたく思っています。
- 皆様ご存知のとおり、1999年に東海村で発生したJCO臨界事故をきっかけに整備された緊急被ばく医療体制は、2011年の東京電力・福島第一原子力発電所事故の経験を踏まえて、原子力災害医療へと進化してまいりました。従前の被ばく医療に救急医療

の仕組みを導入し、さらに災害医療の視点を取り入れたということになります。

- 釈迦に説法ではございますが、被ばく医療、緊急医療、災害医療という3つの機能をシームレスに統合するためには、関係機関が密な連携を保ちつつ、それぞれの役割を果たすことが重要です。その中で高度被ばく医療支援センターは、高い線量を被ばくした、あるいは高度に汚染された患者の処置を引き受けるとともに、この特殊な医療分野に関する知見と技術を将来にわたって維持・強化していく役割を担っています。
- まさに原子力災害医療のブレインであると言ってよいと思いますが、これまでに福井大学が、そして福井県の関係機関が培ってこられた経験・技術を遺憾なく発揮していただくために、今般、本施設が整備されたことを大変心強く思います。原子力災害医療という枠組みを長期にわたって維持していくためには施設・設備の維持にも増して、人材の育成が重要です。この高度被ばく医療支援センターを十二分にご活用いただき、専門的な人材の育成にも一層力を入れていただきたい、そのように期待しております。
- 繰り返しになりますが、福井大学が、これまで蓄積してこられた知見・経験、そして人材を通して、今後も原子力災害医療を支えてくださいますようお願いするとともに、関係各位の更なるご活躍・ご発展を祈念して、簡単ですが私のご挨拶とさせていただきます。ご静聴ありがとうございました。

以 上